

# トラウデン直美さん Naomi Trauden Special Talk

循環型社会を目指す中で、環境省が推奨する「サステナブルファッション」はクリーニングと親和性が高いテーマです。

今回、モデルで環境省のサステナビリティ広報大使も務められるなど、SDGs 活動への関心も高いトラウデン直美さんに、ファッションへのこだわりや地球環境への想い、さらにはクリーニング業への期待などについて伺いました。



クリーニング産業総展2024  
2月15日(木) イベントステージでの収録より抜粋  
登壇者 トラウデン直美氏 (モデル)  
岩田 美和氏 (全国クリーニング生活衛生同業組合連合会副会長)  
司 会 甲斐 彩加氏 (株式会社文化放送アナウンサー)



も発信していたら、スポンサーさんやブランドさんから、自分達が作った服を長く大事にしてもらえるのは嬉しいと言っていたこともあります。

## 日頃実践しているSDGsの取り組み

**甲斐**／トラウデンさんは、環境省のサステナビリティ広報大使を務められるなど、SDGs全般に興味をお持ちで、かつ様々な実践をされていると聞いています。

**トラウデン**／小さな生活レベルのことですけれど、毎日エコバッグとマイボトルを持ち歩いていたり、なるべく使い捨てではなく自然由来のものを選ぶというの意識していますね。

あとは衝動買いをしないこと。「こんなに食べられなかった」とか、「意外と使う機会がないな」となるので、本当に必要かどうかを一旦考えてから買うようにしています。

長く着たお洋服でちょっと飽きてきちゃったな、というものは着丈をお直ししたりして、軽いリメイクで印象を変えたりします。

**甲斐**／実は今日私が履いているスカートは母から譲り受けたもので、30年前に購入したもののなんです。ずっと大事にしていると、子ども・孫と受け継いでいくものもありますよね。



## Profile トラウデン直美

1999年生まれ、京都府出身。慶應義塾大学法学部政治学科卒。『2013ミス・ティーン・ジャパン』でグランプリを獲得。13歳で女性ファッション誌『CanCam』の史上最年少専属モデルとしてデビュー。モデルだけでなく情報・報道番組にも出演。2020年6月から環境省プラごみゼロアンバサダーを務め、2021年1月から環境省サステナビリティ広報大使に就任。

長く着たい服を手にとって、メンテナンスを重ねてきれいな状態で次の人に渡す。  
お洋服の寿命を延ばしてあげることが大事だと思います。

で、長く楽しめるファッション業界であってほしいなと思います。

だから、どのように作られて、自分が着た後どうなっていくのか、お洋服の一生についてその背景を調べてみるとよいかもかもしれません。私の手元に来るまでにどういう道を辿ってきたんだろう、というのは意外と大冒険で楽しかったりするの。

透明性を意識して情報を開示しているメーカーも増えているので、「このコトンはあの国で作られたんだ」というのが見えてきたり。

**岩田**／それを知っていると、同じ服でも手に取った時にその扱いや感慨深さも変わってくるかもしれませんね。

**甲斐**／今後、期待することはありますか。

**トラウデン**／好きな服、長く着たいなと思う服を手にとって、しまし洗いのクリーニングや日常のメンテナンスを積み重ねて、大きな傷にならないように意識して。それでも自分はどういいかなと思ったなら、きれいな状態で次の人に渡す。

お洋服の寿命を延ばしてあげるのが大事だと思うので、それが広まって、楽しく、でもお洋服の業界にもプラスの影響があるようにしていけたらいいなと思います。

## 今ある服を長く着るために

**甲斐**／天然繊維素材の栽培から服の製造・着用・廃棄に至るまでの流れの中で相当量のCO<sub>2</sub>の排出があるというところで、日本政府は今ある服を大切に長く着る「サステナブルファッション」を推進しています。

クリーニング業界ではこの提唱に連動して様々な取り組みをされていると伺っていますが、具体例を教えてください。

**岩田**／環境省によれば、今ある服をもう1年長く着るだけで年間約3万トンもの廃棄量削減に結び付くと試算しています。そのために私達クリーニング業界としても、できるだけ長く着るためにクリーニング店でメンテナンスをしていただけたらと考えております。

**トラウデン**／先日、資源ごみとして出された服の分別をしている現場を見せられたのですが、少しシミになつていたら、よれて人には渡せないから資源ごみに出されていると聞きました。

シミになつているものでもクリーニング店に出せばきれいになるものもあるんじゃないですか。そうしたら、また別の方が着てくれる可能性もあるし、今はフリマアプリでの古着の取引も増えています。「シミが付いているから捨



全ク連  
岩田副会長

てちゃおう」じゃなくて「クリーニング店に出したらきれいになって、また誰かが着てくれるかも」というところはすごく可能性があるんじゃないかって感じましたね。

**甲斐**／トラウデンさんは環境省のインタビューで、モデルという新しい服を買ってもらおうお手伝いをする仕事に就きながら、ある意味それと相反するサステナブルファッションの推進という取り組みに悩まれたこともあったとお答えになつていますが。

**トラウデン**／そうですね。サステナブルな社会が大事だと思っっている一方で、ファッションモデルという仕事をしている自分は矛盾してないかってすごく悩んだんですが、逆にファッションの業界にいますからこそ伝えられることもあると思っっています。

例えば、新しい技術としてリサイクルポリエステルや、廃棄予定だったりんごから作るアップルレザーのようなものが出てきたら紹介するのも一つの立場なのかなと。また、今日みたいに「大事なものを長く着ようよ」ということ



トラウデンさんが出演したイベント時の動画を公開予定です！  
全国クリーニング生活衛生同業組合連合会ホームページ <https://www.zenkuren.or.jp>